長洲町立長洲小学校　校長便り　No.5

# みんなの居場所

**頭の体操コーナー**

**裏に頭の体操クイズを載せています。小学校で学習することをベースに作っています。出来る出来ない関係なく、ご家族でチャレンジしてみてください。会話が広がります。**

令和4年5月6日(金)

## お便り紹介

2年生の保護者の方からお便りを頂きました。ご紹介します。

「校長先生ご自身が、生い立ちやお気持ちを語って頂き、ありがたく思う気持ちを持つことができて、素直に嬉しかったです。日々子育てを一生懸命しているつもりですが、悩むことも多いです。でも、これ（みんなの居場所）を読んだ後、前向きな気持ちになることができました。子供との話題作りにも活用したいと思います。」

こうしてお便りを頂く度に身の引き締まる思いです。自分のことについて語ったり思いを語ったりすることは、自分自身の立ち位置を確認するためにも必要なことだと思っています。校長とはいえ同じ悩み多き一人の人間です。仕事、子育て、人間関係、家族…、多くの悩みに押し潰されそうな時もあります。皆さんと話題を共有して、よりよい子育て、教育活動につなぐことができれば良いなと考えています。今後もお便りお待ちしております。

## 改めて勉強方法を考えてみた！

一昨年の今頃、私は熊本市に勤務し始めて3週間、休校措置が延長されるかどうかの判断を待っていました。結局、休校措置が延長になったのですが、子供達の学びは止まりません。学校に行きたくても行けない状況から、逆に「学びたい」という気持ちが強くなっている状況もあるのではないかと考えました。我が家の高3の息子達（現在大2）もようやく?危機感を感じ始め、休校の間に少し勉強しておかないと…と慌てていたようです。この時改めて子供達の自主的な学習方法を私なりに考えてみたのが次の方法です。

①国語の漢字先取り学習

担任時代によくやっていたことですが、国語で学習する漢字をすべて短期間に覚えてしまうのです。それによって、その後の学習がスムーズになります。更に他教科の学習でも自主学習の可能性が高くなるのです。漢字を覚えるのは単漢字で覚えるのではなく、熟語や慣用句で覚えるのが良いでしょう。漢字の意味は一つではありませんからね。語彙を増やすことは学習だけでなく、生活にも潤いを与えます。

②教科書を自主学習で進めてみる

新しい教科書を頂くと、新鮮な気持ちになるのは私だけではないと思います。小中学校時代、新しい教科書を後の方までしっかり見ていました。学習はそもそも自発的な気持ちで行うことによって、効果が上がります。いわゆる「自主性」が学習の成果を上げる鍵です。自主性が高ければ高いほど、また興味の高いものほど成果が高くなります。国語、社会、算数、理科の中から一つ選んで、自主学習を進めてみては如何でしょう。教科書の内容の配列には意味がありますので、できるだけ順番にやってみてください。新しい発見があります。

③辞書をもって読書?

読書の大切さはお伝えした通りですが、内容が少し難しい本を読むのが良いと思います。意味の分からない言葉が出てきたら辞書で調べて読み進めるのです。想像力がついて創造性が高まります。

④トレーニング

動かないと体にも悪く、ストレスも溜まり心にも悪い影響を与えます。部屋でできるトレーニングを実施してみましょう。

⑤自主学習のアイデアをみんなでシェアする

他にもいろいろなアイデアがあるはずですから、新しいアイデアが浮かんだら、シェアリングすると良いですね。良い方法があったらみんなで共有して切磋琢磨するのが良いでしょう。

ダラダラと書きましたが、何はともあれ新型コロナウイルスの感染拡大の収束を祈るばかりです。学校の日常の有難さが身に沁みます。

## シリーズ「自分を語る」#5

前回の内容は、私たち兄弟が伯母の家に取り残されてしまい、歩いて家に帰るという決心をしたところでした。今回はその続きです。

再度伯母の家の呼び鈴を鳴らすも反応なし。私は意を決して歩き始めました。傍らで泣きじゃくる弟を連れ、なだめすかしながら歩を進めました。

季節は夏でした。普段から見慣れていた楽しみに見ていた風景が、何か色褪せて見えました。熊本市坪井から新地団地までの距離は凡そ6.5㎞です。その道のりを5歳と3歳の兄弟が歩く訳で、テレビ番組の初めてのお使いのような感じでした。弟は疲れて何度も途中で座り込んでいました。冷静に考えると滑稽?ですよね、幼い兄弟が国道を二人で歩いているのですから。今だったらすぐに通報されるのでしょうか。幼稚園の通園バスが通る道をひたすら歩く私達。お金も持っていませんので、水分も摂れませんでした。兎に角家に帰れば何とかなると考えていましたので、帰るという選択しかありませんでした。

一方、母は大慌てでした。慌てるというよりもパニック状態だったのでしょう。伯母は既に帰宅しており、母と合流し事情を聞いていました。色々な可能性が排除できないということで、警察に連絡することになったそうです。当時は大らかな時代だったのでしょうね、幼子の兄弟をおいて用を済ますのですから。この話題、我が家では語り草となっています。母親の情報を基に警察は周辺をパトロールしてくれたそうです。でも、見つかりっこありません。当然ですね、まさか歩いて家に帰るなんて発想になかったのですから。

私たち兄弟は、既に熊本市の亀井まで到達していました。坪井から3.5㎞付近です。大人の歩行で一時間弱でしょうか。私たち兄弟には凄く長く感じたことは言うまでもありません。この頃になると暑さと疲労で、二人で座り込むことも多くなっていました。そんな姿を見て、周囲の大人も変に思ったのでしょう、道路沿いにあったガス屋さんのおじさんが、私たち兄弟に声を掛けてくれました。

「家に帰る途中」

「僕達どうしたの?」

「新地団地」

「お家どこ?」

「坪井のはちゃんげ」

「どこから歩いてきたの?」

そのおじさん、放っておけなかったのでしょうね私たち兄弟を。それから根掘り葉掘り情報を聞き出し、こう仰いました。

「おじちゃんが家まで送るから車に乗りなさい。」

危険回避能力のない幼稚園児澤田!　もしや誘拐!?　そうです、見知らぬ人に声を掛けられ、その人の車に乗ってしまう澤田兄弟でした。運命や如何に!?　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）